

(様式2)

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月13日
札幌市立澄川西小学校

1 本年度のめざす子ども像

自ら心を動かし 自信をもって行動できる子

2 本年度の経営の重点

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力	毎日の授業を「子どもが分かる・できる・楽しい授業」になるように努め、粘り強く学ぶ子を育てていきます。	B	来年度研究会は予定していないが、学年・ブロック研修の時間を確保し日々の授業実践が営まれるよう計画していく。また、澄川中学校区パートナー校との連携を軸に、教職員の研修機会を大切にする。	A	A
	子どもの自主学習(宿題や家庭学習)が定着するように、家庭と協力しながら学習習慣、環境づくりを進めます。	B	本校の6年生で目指す姿は自主学習とする。 低学年…プリントを中心とした宿題。 中学年…選択制プリントなど自主学習へつなぐ。 高学年…自分に合った学習法を見出し、主体的に学ぶ。 学年が上がることによる難しさが見られるようなので、各家庭への発信と啓発を丁寧に進めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		日々の教育を大切にし、授業実践を積んでゆく姿勢が良い。澄川中学校区のパートナー校の連携を継続してその軸をさらに太くしてほしい。発達段階に相応した自主学習の課題を提供するとともに、個々の自主的、主体的な取組をサポートしてほしい。			
豊かな心	小中連携でのあいさつ運動、異学年交流のあいさつ活動、日常交流などを通して子ども同士の温かい人間関係を育みます。	A	今年度導入した学年別カラー帽子はあいさつ活動等で有効であった。本校の柱となりつつある、全校異学年交流である中休みの「あいさつ遊び」、9月体育発表会の「あいさつリレー」を継続する。またふれあい学活や読み聞かせなど、学年同士の関わりの場も大切にしていく。	A	A
	いじめ防止や命を大切にする指導、学年学級経営などを充実させ、子どもの居場所がある学校、学級づくりに努めます。	A	次年度も引き続き、学校全体で一人一人の子を見守ろうとする意識をさらに高めるために、各種アンケート結果を共有するとともに、毎月「いじめ防止対策委員会」「校内学びの支援委員会」を開催し、情報共有を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見		カラー帽子の導入による活動の有効性は良い。アフターコロナの中で、異学年交流の良さをさらに生かしてほしい。毎月の委員会開催によって、情報の交流、共有を図るとともに日常的に子どもたちの様子を見守り続けてください。 今年「澄川の子どもを見る会」の研究会とてもよかったです。 子どもと先生が共に取り組んでおる姿を見ることができました。ありがとうございました。			
健やかな体	体育の学習やなわとびの日、体育発表会など、めあてをもって取り組み、積極的に運動に関わる子どもを育てます。	B	体力委員会や活動部が中心となり、いろいろな運動に触れる機会を多くできるような取組を企画したが、教職員の意識としては物足りないものであった。次年度改善すべくこの2年間設置されなかった。まずは竹馬や一輪車の整備を進めていく。	B	B
	いのちの学習、食指導、学級指導を充実させ、自分の心と体を見つめていける子どもを育てます。	A	いのちの学習についてはカリキュラムとして整備できているので継続していく。食指導についても給食親学校の澄川小栄養教諭と連携し、引き続き全学年での指導を実施していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		全国体力、運動習慣等、調査報告書によると、本校児童の体育授業は楽しいというアンケート結果は、全国平均より男女とも高い傾向にあり、良いことです。今後整備される竹馬や一輪車、なわとび等を、授業以外の時間や場にも子どもたちに提供してほしい。運動は達成感を伴い、経験が体力向上につながると思います。工夫を期待します。 軟弱な子でなく、元気に育つことを願います。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
子ども支援	心と体のアンケートやふれあい対話、保護者との相談や個人懇談などを丁寧に進め、子どもの内面をとらえることに努めます。	B	これまでの朝の健康観察に代わって、2学期よりクロームブックによるシャボテンログが始まった。従前の体調把握だけでなく、児童の心の面の変化を捉えることが可能になった。しかし、日々の関わりや観察を並行し、きめ細かな子どもの支援に努める。	B	A
	専科指導、学年合同授業、学びのサポーターなどを活用し、担任だけではなく教職員みんなで子どもを支えています。	A	高学年を中心に充実した専科指導や合同授業や交換授業を通して、多面的な子ども理解を図り、教職員みんなで子ども一人一人を支えていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		シャボテンログが全市で始まり、健康観察のデジタル化は有効に活用されていくと思う。改善の方策にあるように、日々の関わり、観察の並行も大切にしてほしい。子どもの世界も多様性があり、教職員みんなで支えていくという本校のスタイルはすばらしいと思う。私も課外活動の一環として少年消防クラブを結成し、お手伝いしております。少しでも課外活動に興味をもってくれると嬉しいです。			
発信	学校ホームページやメールからの発信を工夫しながら、家庭との情報共有を大切にしていきます。	B	大切な情報を保護者に速やかに伝わるよう、連絡メールアプリ「すぐる」の活用を今後も継続していく。また、学校ホームページについては、個人情報保護の対策を施した上で、本校の取組を地域や家庭に発信していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		本校のホームページは、子どもや学校の様子が伝わりやすく、個人情報保護対策もしっかりしている。			
安全	安全指導、PTAや地域の見守りなど、地域全体と連携しながら子どもたちを守る取組を進めていきます。	A	いつもPTAや地域の方々に見守られ、子どもたちは安心して登下校や学校生活を送ることができているので、今後も継続していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		地域の見守りが充実し、安心した生活を送ることができる。子どもたち自身が、安全への意識をもち、判断する力や地域とのつながりを意識できる力を育むようにすることも大切です。			